

令和5年度EDU-Portシンポジウム 「今後の国際教育協力への期待」
2024年3月12日（火）

活動報告・成果事例①



エジプトにおける非認知能力の育成 に向けた特別活動の国際化と質保証

○京免徹雄（筑波大学）

杉田 洋（國學院大學）

山田真紀（椛山女学園大学）

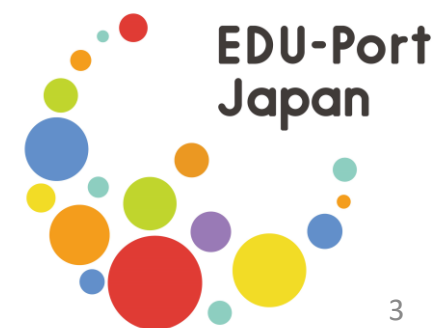
天野幸輔（名古屋学院大学）

1. はじめに

本調査研究の概要

- 事業名：「非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究～日本型教育先進地エジプトにおけるTokkatsuの効果検証～」
- 筑波大学を代表機関として、文部科学省EDU-Portニッポン「令和5年度 予測困難な時代の学びを保障する学習手法の共有と海外展開に関する調査研究」に応募し、採択された。
- 2023年12月23日（土）～31日（月）にエジプト（カイロ）にて現地調査を実施

<https://www.eduport.mext.go.jp/en/case-en/research-en/project-list-en/>





ホーム
Home

研究テーマ
Research

活動報告・研究成果
Report and Achievements

メンバー・体制
Member

イベント
Event

関連情報
Resource



EDU-Portニッポン

「非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究」

EDU-Port Japan

“Study on internationalization and quality assurance of Tokkatsu aimed at fostering non-cognitive skills”



研究目的

- 本研究では、エジプトの小学校で導入・実施されている特別活動（Tokkatsu）の現地化の実態を調査し、個人と社会のウェルビーイングを支える要素ともいわれる非認知能力に与える影響を明らかにします。

さらに、エジプトの関係者と共同で、質保証を目的とするディプロマ・プログラムを作成することを通じて、国際的通用性と倫理性を備えたグローバル・スタンダードな日本型教育モデルを開発します。

研究目的

- また、エジプトで実施中のODA事業と相乗効果を発揮するとともに、カイロ日本人学校の協力を得て、人材の重層的ネットワーク強化にも貢献します。

日本特別活動学会との連携を通じて、調査結果を国内に還元し、日本の教育の国際化につなげるとともに、将来的にグローバルサウスと呼ばれる国々の教育改善にも貢献できる知見の創出を目指しています。

エジプトにおけるTokkatsuの現状

パイオニアスクール **12校**



学級会

学級指導

エジプト日本学校 (EJS) **51校**



日直

全国の学校 **約2万校**



係・当番

掃除



NHK「クローズアップ現代」での放送



日直や掃除に給食当番...世界中で日本式教育が導入される理由「TOKKATSU」の意義とは？イスラム教とも相性がいい？【クロ現】|NHK

NHK
4.16M subscribers

Subscribe

3.4K



Share

Download



315K views 3 weeks ago

いま世界で、学級会や日直など日本式教育「特別活動（TOKKATSU）」に熱い視線が注がれている。「アラブの春」以降、混乱が続くエジプトでは大統領肝いりの政策として全国で導入され、子どもたちに革命的な変化が起きたと評されている。その効果とは？一方の日本ではいま特別活動が曲がり角を迎えている。働き方改革などから活動が削減されているのだ。世界を股に掛けた取材から子どもにとって大切な教育とは何か考え...more



<https://youtu.be/Ybb7yi5hM-Q?si=U6z9gwSZO063CEA5>

NHKクローズアップ現代（初回放送
2023/12/6）

<https://www.nhk.or.jp/gendai/articles/4854/>

- 共著論文
- 共同学会発表
- 学術イベントの共催

- 高位の学位プログラム
- 学部課程での必須講義や実習

- エジプト日本学校や他の学校への経験共有

EDU-Port調査研究事業の枠組み

A. Tokkatsuディプロマの共同開発に向けた協議

B. 小学校における非認知能力育成の効果検証

C. Tokkatsuの現地化と研修・認証制度の調査

D. カイロ日本人学校とエジプト日本学校との教職員の交流

- 文科省EDU-Port調査研究事業（筑波大学）
- 重点課題研究（日本特別活動学会）

パデコ

- エジプト日本教育パートナーシップ
- 基礎教育省（JICA Projectのホスト機関）
- エジプト日本学校
- エジプト日本科学技術大学
- 関心を有する大学
- その他

プロジェクトリーダー4名+27名のメンバー

■ 京免 徹雄 (筑波大学) Tetsuo KYOMEN (University of Tsukuba)



専門領域: 特別活動、キャリア教育、比較教育学
Research Field: Extracurricular Activities, Career Education, Comparative Study
本研究における役割: 全体統括、プロジェクトCリーダー
Role in the study: Principal investigator, Project C leader

■ 山田 真紀 (楊山女学園大学) Maki YAMADA (Sugiyama Jogakuen University)



専門領域: 特別活動、教育社会学
Research Field: Study of TOKKATSU, Sociology of Education
本研究における役割: プロジェクトBリーダー
Role in the study: Project B leader

■ 杉田 洋 (國學院大学) Hiroshi SUGITA (Kokugakuin University)



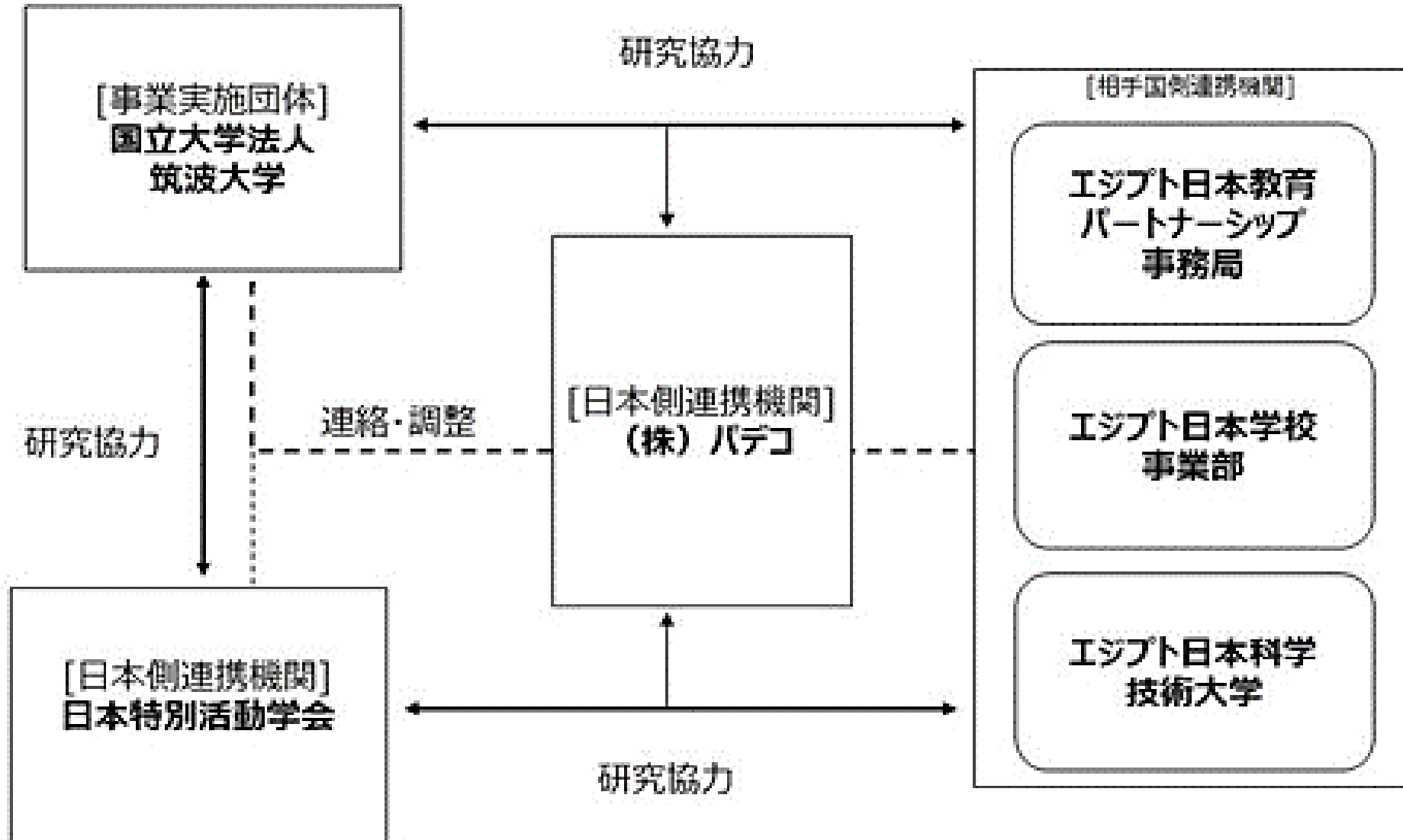
専門領域: Tokkatsu, Classroom Management, School Management
Research Field: Extracurricular Activities, Career Education, Comparative Study
本研究における役割: 全体統括、プロジェクトAリーダー
Role in the study: Project A leader

■ 天野 幸輔 (名古屋学院大学) Kohsuke AMANO (Nagoya Gakuin University)



専門領域: 特別活動、道徳教育、いのちの教育
Research Field: Extracurricular Activities, Moral Education, Death and Life Education
本研究における役割: プロジェクトDリーダー
Role in the study: Project D leader

実施体制



2. プロジェクトA Tokkatsuディプロマの 共同開発

プロジェクトAの目的

- ディプロマ・プログラムの内容と実施体制について、エジプト科学技術大学およびカイロ大学の研究者と協議する。
- その協議プロセスそのものを研究対象として、実践者・研究者主体の互恵的・継続的に学び合う「草の根交流」モデルの構築に向けた手がかりを得る。



Tokkatsuディプロマに関する協議過程

- | | |
|---------------|---|
| 2021年12月 | Tokkatsu指導員9人を認定 |
| 2022年9月 | EJEP事務局長がエジプトでのTokkatsuディプロマ・プログラムの開発を提案 |
| 2023年6月 | Tokkatsu指導員13人を認定 |
| 2023年7月 | エジプト教育パートナーシップ事務局長ハニー教授の来日（國學院大學、筑波大学、特活学会関係者と面会） |
| 2023年9月7日 | 同調査研究プロジェクト関係者とエジプト側関係者の第1回オンライン会議 |
| 2023年9月12日 | エジプト高等教育省最高大学評議会教育学部委員会との意見交換 |
| 2023年10~11月 | 同上の継続（10/18、10/30、11/6、11/16、11/28） |
| 2023/11/19 | 重点課題研究プロジェクト・EDU-Port調査研究チーム会合
エジプト側の講義・実習科目案への日本側対案提出 |
| 2023/12/26~27 | Tokkatsu指導員認定の公開実習、エジプト日本科学技術大学主催イベント
エジプト側候補大学等とのラウンドテーブル協議、議事録への署名 |

Tokkatsu指導員認定 (TTCS) の公開



(1) 学級指導の公開授業



(2) 指導主事による教員への助言指導



(3) 評価委員による聞き取り



(4) 評点平準化会議

エジプト日本科学技術大学でのイベント



参加機関による発表



議事録への署名



ラウンドテーブル協議



グループディスカッション

日本側から提案した講義・演習案の一部

コード	セッション名	時間	形式	単位時間	実際の授業の長さ (分)			
					理論	実践	現場	計
1	特別活動の目標と内容	60分	講義	1	60			60
2	全人教育における特別活動の役割	60分	講義	1	60			60
3	日本の学校生活と特別活動① (理論と実践)	60分	講義	1	60			60
4	日本の学校生活と特別活動② (理論と実践)	60分	講義	1	60			60
5	特別活動における教師としての指導観	60分	講義	1	60			60
6	学級会 (理論)	60分	講義	1	60			60
7	学級指導 (理論)	60分	講義	1	60			60
8	特別活動と授業研究 (Lesson Study)	60分	講義	1	60			60
9	学級会の指導計画の作成 (演習)	120分	演習	1		120		120
10	学級指導の指導計画 (演習)	120分	演習	1		120		120
11	模擬学級会 (演習)	120分	演習	1		120		120
12	模擬学級指導 (演習)	120分	演習	1		120		120
				合計	12	480	480	960 ¹⁷

3. プロジェクトB 小学校における 非認知能力育成の効果検証

プロジェクトBの目的

1. 学級会の分析

- エジプト日本学校（EJS）における学級会の場面、およびその前後の子どもの姿から、非認知能力の発揮・獲得の場面を捉える。
- 音声データを文字起こしして、教育方法学の方法論に基づき授業分析を行う。特に合意形成の場面を可視化することで、非認知能力との関係を考察する。

2.モスト・シグニフカント・チェンジ（MSC）による参加型評価

- 児童個人や集団の変化を捉えるため、特定の学級を追跡する。学校教員、保護者等を対象とするワークショップを開催し、児童の変化で最も大きい要素について議論する。

EJS3校での学級会の参与観察



学級会の分析方法（作成者：小泉琢磨）

児童 の発言	白色		意見・質問・司会からの提案など
	緑色		賛成意見
	赤色		反対意見
	黄色		質的改善（新しい考え・価値が生まれた発言） 賛成意見や反対意見の中で生まれることもある。
教師の 発言	水色		思考を促す助言（教師が答えを出していない）
	青色		すべきことを明確にする指示（教師が答えを出している）
	紫色		児童生徒への期待を込めた要求（答えは出さないが求める）

EJS3校での学級会の参与観察

学級会の過程の数値化

(1) つながり率 (%) = 矢印の数 ÷ 児童総発言数

児童生徒の発言数における、つながりのある発言数の割合を示す。

(2) 教師発言率 (%)

= 教師総発言数 (水色の数 + 青色の数) ÷ (児童総発言数 + 教師総発言数)

総発言数 (児童生徒の発言数 + 教師の発言) における、教師の発言数の割合を示す。

(3) 教師誘導率 (%) = 青色の数 ÷ (児童総発言数 + 教師総発言数)

総発言数 (児童生徒の発言数 + 教師の発言) における、教師の誘導的な発言数の割合を示す。

(4) 質的改善率 (%) = 黄色の数 ÷ 児童総発言数

児童生徒の発言数における黄色が含まれる発言数の割合を示す。

(5) スルー回避率 (%) = (触れられた意見の数 + 回答等があった反対、質問の数) ÷ (意見の総数 + 反対の総数 + 質問の総数)

意見の数 (意見数 + 質問数 + 反対の数) における、その後触れられた発言数の割合を示す。

学級会参観シートの例

2023年 12月 25日(日) 参観者(小、泉) No.(2)	
導入・終末 話し合うこと(①・2・3)	12:10~12:45
1 司会	2 司会
3 司会	4 司会
5 司会	6 司会
7 司会	8 司会
9 司会	10 司会
11 司会	12 司会
13 司会	14 司会
15 司会	16 司会
17 司会	18 司会
19 司会	20 司会
21 司会	22 司会
23 司会	24 司会
25 司会	26 司会
27 司会	28 司会
29 司会	30 司会
31 司会	32 司会

2023年 12月 25日(日) 参観者(小、泉) No.(3)	
導入・終末 話し合うこと(①・②・3)	12:20~12:45 35:10~35:20
51 司会	52 司会
53 司会	54 司会
55 司会	56 司会
57 司会	58 司会
59 司会	60 司会
61 司会	62 司会
63 司会	64 司会
65 司会	66 司会
67 司会	68 司会
69 司会	70 司会
71 司会	72 司会
73 司会	74 司会
75 司会	76 司会
77 司会	78 司会
79 司会	80 司会
81 司会	82 司会
83 司会	84 司会
85 司会	86 司会
87 司会	88 司会
89 司会	90 司会
91 司会	92 司会
93 司会	94 司会
95 司会	96 司会
97 司会	98 司会
99 司会	100 司会



- 教師の発言率の低下：「教師が動かして教師が決める学級会」から「児童が動いて児童が決める学級会」へ
- つながり率の向上：「個々の児童が自分の思いを主張する学級会」から「人の話をよく聞いて、その思いを受けて発言する学級会」へ

導入初期と5年後の学級会の比較（作成者：小泉琢磨）

時期	2019年1月		2023年12月	
学校	A校	B校	C校	D校
つながり率	14%	3%	23%	31%
教師発言率	47%	63%	8%	8%
教師誘導率	22%	21%	8%	8%
質的改善率	17%	17%	14%	27%
スルー回避率	58%	43%	82%	63%

- 導入初期は、エジプトの教師の発言率が最も高い。しかし、教師が答えを出していることは低く、質的改善率はエジプトの方が高い。
- 2023年の学級会では、日本の学級会の平均値に近い数値を示している。教師がコントロールできる「教師の発言率」は日本より低い。

エジプトと日本の学級会との平均値の比較（作成者：小泉琢磨）

学校・時期・学年	エジプト 2019 低学年	日本 2023 低学年	エジプト 2023 高学年	日本 2023 高学年
つながり率	9%	18%	27%	26%
教師発言率	55%	32%	8%	18%
教師誘導率	22%	19%	8%	14%
質的改善率	17%	15%	21%	22%
スルー回避率	51%	71%	73%	74%

MSCによる参加型評

・参加者

EJS教師10名、保護者5名、行政関係者（TO）5名

・方法

- ①ワークシートに「子ども」「教師」「学校」について、どのような変化が、なぜもたらされたのか記入する。（25分）
- ②各グループで最も重要だと思う変化について話し合い、まとめる。（30分）
- ③話し合った結果を全体へ発表する。（20分）
- ④日本側の代表からの講評を行う。（10分）
- ⑤ワークシートに、協議を通して学んだことを記入する。（5分）



Tokkatsu（日本式教育）の導入による最も重大な変化（作成者：平田幸男）

グループ	子ども	教師	学校
教師A	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもつ。 ・探究者。 ・協力的に批判し、違いを受け入れ、諸問題を解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的な視点と計画をもつ。 ・子どものパフォーマンスを追跡する。 ・教育的なプロセスを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が1つのチーム、共同体として統合された。
教師B	<ul style="list-style-type: none"> ・協力的、探究的、リーダー性 ・喜んでいる。 ・自由に表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自身を改善、発達させることができる。 ・異なる方法や代替案をもって子どもを支援できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや教師にとって第2の家庭になった。 ・健康的で新しい生活様式になった。 ・評価、改善を継続的に行うことができる。
Tokkatsu 指導者	<ul style="list-style-type: none"> ・責任感をもつ。 ・リーダーシップが改善された。 ・自己肯定感が高くなった。 ・他者を受け入れることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同僚の経験も生かしながら、よりよい計画を作るようになった。 ・その子どもの個性や思いについて、より配慮することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって魅力的になった。 ・保護者との協力のもとよい計画を立てることができる。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・効果的な役割に参加することによるリーダーシップ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方や説明において、多様で新しい方法を用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見に耳を傾け、それを活用する。

子ども、先生、学校の変化

- **子ども**：社会の形成者（市民）としての資質・能力の向上
自己肯定や自信の向上による自己実現
- **教師**：1人1人の個性に配慮した、子どもの中心の授業
同僚性の高まりを活かした授業改善と職能発達
- **学校**：自分と異なる他者ととともに生活する場所
やりたいことを提案して実行できる、魅力的な場所
教師、子ども、保護者が協働するチームとしての学校

4. プロジェクトC 特別活動の現地化に関する インタビュー調査

プロジェクトCの目的

1. エジプト日本学校（EJS）と公立学校（パイオニア校）でのインタビュー調査

- Tokkatsuに対する認識について教師・児童へのインタビューを行い、特別活動の内容と機能のうち、何が受け入れられており何が受け入れられていないか、受容の際にどのようなカスタマイズがなされているか明らかにする。

2. Tokkatsuオフィサー研修・認証制度の調査

- 教育・技術教育省、研修協協力関、県教育事務所において研修の参与観察、受講者（TO）へのインタビューを行い、質保証制度としての成果と課題を明らかにする。

児童に対するインタビュー結果

- 意見を言える、決めたことをできる、反対意見でも聞くことができるのが、学級会のよいところ。
- みんなが静かなときは、日直は不要。
- 他者に認められ感謝されることで、自信がついた。
- 学校内外で、他者と協力するようになった。
- 問題が起こった時に話して解決できるようになったことで、友達との見方も変わってきている。
- 先生に対して怖いイメージが強かったが、自分たちがやろうとすることを一緒に考え、アドバイスを与えてくれる存在に変わった。



児童に対するインタビュー結果

児童に対するインタビュー例（作成者：相庭貴行）

質問内容	児童 A	児童 B
学級会に対する印象と実施したことによる変化	<p><u>Respect</u> されるのがうれしい。</p> <p>自身：意見が言えるようになった。</p> <p>友人：否定ではなく<u>議論する</u>ようになった、<u>ほめる</u>こと増えた。</p> <p>学級：家族のように<u>助け合う</u>ようになった。</p>	<p>最初は意見聞かない人もいて、少し大変だった。</p> <p>自身：<u>自由に意見言える</u>ように。</p> <p>学級：言っても大丈夫と感じられるようになり、<u>相談する</u>ことも増えた。他の時間も相談増えた。</p>
掃除に対する印象	<p>最初は消極的だったが、やると<u>みんな喜ぶ</u>ので、やる気が出た。</p> <p>家でもやり方教えている。</p>	<p>がんばっている。家に戻っても、ほうきの使い方などを教えている。</p>
日直に対する印象	<p>リーダーになって<u>respect</u>されることがうれしい。</p>	<p>先生を<u>サポート</u>するのが楽しい。</p> <p>家でも家族を手伝うようになった。</p>

教師に対するインタビュー結果

- 児童が相互理解して協力したり、責任をもって行動することで、自信を持つようになった。
- 話合いでの教師の役割は、話を聞くこと、待つこと。その結果、児童が何を考えているかわかるようになった。
- クルアーンやハディースに、掃除することや人の意見を聞くこと、話し合うことの大切さが書かれている。



教師に対するインタビュー例（作成者：相庭貴行）

質問内容	教員 C	教員 D
Tokkatsu の目的 やキーワード	<p>協力、参加、責任、意見が言える、幸せになる力…etc。 子どもの性格のため。 子どもの人間関係も大事。</p>	<p>チームワーク、振る舞い、自信…etc。 元々元気な子が多いので、うまく意見を言えるようになる、相談できるようになる。</p>
Tokkatsuの合った ／合わなかった点	<p>容易…朝の会。一日の目標を立てるなど容易だった。 困難…朝自習（静かにするのが大変）、掃除（家で経験ない）。</p>	<p>学級会は日本のやり方を真似して容易にできた。ただ、4-6年は少し難しい。掃除も家庭に感謝される。 ただ学級会は途中で口をはさみたくなり、我慢するのが大変。</p>
多数決の問題や同調圧力への対応	<p>異なる意見があれば、友人に相談するようにする。 意見が割れたら説得する。</p>	<p>意見が割れたら相談して交渉する。サジェスチョンボックスに意見を入れて、取り上げることもある。</p>
Tokkatsuの成果	<p>クラスメートのことをよく理解するように（朝の1分トーク等で）。 責任を全うすること、協力することが増えた。 自信をもつ子も増えた。</p>	<p>責任を持って行動する、自信をもつ。 命令ではなくやさしく話すようになり、相手の話をよく聞くようになり、先生や他の児童を手伝うようになった。 何でも反対ではなく相談することが増え、グループで動くことも増えた。</p>

Tokkatsu指導者に対するインタビュー結果

- 他者の意見を聞いたり協力する機会がなかったため、個々人が能力を生かせていない状況だった。Tokkatsuは1人1人に役割を与え、自分の力を発見して実践する場を提供した。
- 児童は同調圧力に流されず、「主張することを認め合う」学級文化が形成されている。
- モニタリングにおいて、教科では悪いところを、Tokkatsuでは良いところを見つける。
- 教師に指導したとき、自分は教師ガイドの通りにしているという反応があった。



Tokkatsu指導者（TO）に対するインタビュー例①（作成者：相庭貴行）

質問項目	TO-E	TO-F	TO-G
エジプトの子どもにとってのTokkatsuの意味	子どもたちは元々能力があったが <u>正しく生かせていなかった</u> 。 一人ひとりに合わせて指導できることで、 <u>性格を伸ばす</u> 。	エジプトの人は、自分が自分がとなりやすい。 Tokkatsuは <u>相手のことを聞く、協力する</u> 。 他の人の話を聞き、協力できるようになってきている。	エジプト社会の問題として、 <u>他の人の意見を聞く機会がない</u> 。他の人の意見が自分のためになるかもということ Tokkatsuで学んでいる。 生活能力の向上に役立つ。
Tokkatsuを行う際の学校ごとの工夫	学年間の交流、保護者との交流等。	最近、朝自習の内容や朝の会の話題などにアレンジ加えるようになった。	従来のTokkatsuと共通する要素をもつ活動を発展させた例もある。
一般校にTokkatsuが普及しない要因	負担が増えること 外来のものであり、イメージもわからないため。	研修の問題が一番。研修は行われていても、部分的で全体の理念が理解されていないことがある。 研修自体も少ない。	文化が異なるので、わからない点が多い。 変更することに抵抗がある。
エジプトの教師にTokkatsuを行う資質はあるか	まだわからないが、研修が十分ではない。	準備あればできるが、忙しいのが課題。 見せるためのショーになることもある。	EJSの教員はもっているが、一般校の教員は研修が少ないため不十分。

Tokkatsu指導者（TO）に対するインタビュー例②（作成者：相庭貴行）

質問項目	TO-E	TO-F	TO-G
学校間・教師間の違いは課題になっているか	そんなに問題ではない。合意形成の方法の違い等。	教師用ガイドがあるので大きく異なることはないが、それぞれ教員がアレンジしている。	教師用ガイドでステップが説明されているので、大差ないし教師間の差も問題ない。
TOとしての関わり	先生の気持ちを理解しつつ、Tokkatsuを学校に伝える。	まず自分の普段の生活から変えるようにしている。話を聞くなど。	公立校での研修、EJSでの教師への指導や相談など。
TOに必要な能力	柔軟に相手を理解する力、良い点を見つける力、教員のパートナー（伴走者）になること。	ロールモデルとして、相手のことをよく聞き理解できるよう話す実態を知ること。	コミュニケーションして情報を伝える。特活の哲学を理解し、実行すること。
TOの難しさ	学級数が増えているため、少ししか指導できないことも。	先生は自分ですべてやろうとしてしまう。先生同士の競争もあり、そうすると子どもが損する。	毎年、Tokkatsuの教員が変わるため、ゼロから始めることになる。今も変わらない。
自身のキャリアにおけるTOの意味	自身の話し合う力、相手の話を聞く力に生きてくる。	TOを通して自身の考えを伝えていきたい。	少数派について考える、相談することが増えるなどの変化あった。

5. プロジェクトD カイロ日本人学校とエジプト日本学校 との交流活動

プロジェクトDの目的

- カイロ日本人学校（CJS）とエジプト日本学校（EJS）との間で、小学校教師の交流会を実施する。
- Tokkatsuに対する理解を深めるとともに、合同の学校行事（学芸会や運動会）や保護者交流の可能性について議論する。
- 一連のプロセスから、日本型教育の発展に向けた日本人学校と現地校との協力体制をモデル化する。



合同での学級会の授業研究

(1) 参加者全員による模擬学級会の実施

- ・ 議題「小学生の集団がみんなで楽しめるレクリエーションを決めよう」
- ・ 決まったこと「じゃんけん列車」(エジプトのじゃんけん)



(2) 決まったことの実践

(3) 実践後の振り返り活動

(4) グループインタビュー

- ・ CJS教師とEJS教師を均等に2グループに分け、振り返り



授業研究という交流モデル

- 日本側の発言では、交流相手の立場を考慮して、自分自身の考えを伝える場面が目立った。それらの意見に応じて、エジプト側からも交流の意義を考えながら発言する姿が見られた。
- 互いのよいところを取り入れたり、不都合な点を取り下げたりするなど、折り合いをつけて話し合う様子を意図的に演じる場面があった。



⇒ **国を越えて日本式教育の在り方を検討することで、より国際的に開かれたモデルに改善することができる**

6. おわりに

国際協力の在り方に対する示唆

- 相手国の文化（価値観）と、日本型教育との接点を探る
- 方法だけでなく実践の「哲学」を伝え、理解する
- 日本型の負の側面への注目と、「逆輸入」による学び合い
- 質保証に向けて初等・中等と高等教育を「日本型」でつなぐ
- 「草の根」モデルの教育トランスファーのもつインパクト
- 行政—実践者—研究者の協働による、教育の海外展開

謝辞：本研究は、令和5年度 文部科学省「日本型教育の海外展開（EDU-Portニッポン）」調査研究「非認知能力の育成に向けた特別活動の国際化と質保証に関する研究」の助成を受けた。

謝辞：本研究は、日本特別活動学会2023年度重点課題プロジェクト「グローバル・スタンダードとしての日本型教育モデルの開発—Tokkatsuの海外展開の分析—」の助成を受けた。

謝辞：本研究の実施にあたって、（独）国際協協力構およびエジプト教育・技術教育省（MOETE）から、「エジプト国『学びの質向上のための環境整備プロジェクト』」および「特別活動を中心とした日本式教育モデル発展・普及プロジェクト」のデータの提供を受けた。

付記：本研究は、筑波大学人間系研究倫理委員会の承認（課題番号：筑2023-188A号、筑2023-189A号、筑2023-190A号）を得て、実施した。

ご清聴ありがとうございました。

